

100号の発刊に寄せて



財団法人 日本測量調査技術協会 技術委員長 島村 秀樹

このたび先端測量技術100号を発刊するにあたり、創刊から「A P A」88号、そしてこれを引き継いだ「先端測量技術」の刊行に尽力いただきました歴代の編集委員会の方々、会員ほか関係各位、並びに投稿していただきました多くの技術者の方々に、心からの敬意と感謝を表します。

1977年4月の創刊当時は、1973年のオイルショックの影響を引きずり、空中写真測量の事業量が7割以下になり、その結果、業界の過当競争を招き、技術開発に投資する余力が著しく低下した時代でありました。「A P A」は、そのような難局を打開し、国内ばかりでなく海外への飛躍を期して、写真測量および応用分野の技術の共通の場として発刊されました。記念すべき創刊号には、カラー空中写真と土地利用計画（技術委員会）、国土地理院・解析空中三角測量プログラミングについて（栗原昭八：東洋航空事業（株））、カラー空中写真による図化手法の確立と精度分析についての研究（及川喜好：パシフィック航業（株））、N.N.S.S.実験報告書（堀部史郎：アジア航測（株））、リモートセンシング技術を用いる調査の計画（加藤洋一：パシフィック航業（株））、広域開発計画におけるリモートセンシング技術の利用について（丸岡大祐：アジア航測（株））、道路台帳のコンピュータ利用（恩田育夫：第一航業（株））、道路建設に伴う環境影響評価調査について（平野武彦：国際航業（株））、写測協ニュース（測技協は1978年9月までは写真測量調査技術協会と言っていました）が掲載されています。まさに次世代の業界を担う先進のテーマに対して、技術者の熱意と意気込みが窺える投稿論文が所狭しと収録されていることに感銘を受けました。

現在、当時の規模とは異なるにせよ、100年に一度とも言われる経済危機の中であって、時代は大きな転換期を迎えようとしています。このような世情でも、創刊「A P A」の投稿者の心を継承する技術者は多くいます。技術委員会では、社会と技術の価値観の変化に対する問題意識を常に持ちながら、業界固有の確立された成熟技術だけではなく、情報通信技術を含む他分野の技術を若い技術者層に普及させ、競争力のある技術集団をつくる努力をしています。新たな価値を創出し、時代を拓く技術者を支援するために、各世代の技術力の表現と集約の場として重要な役割を担っている本機関誌の継続な刊行を望み、記念すべき100号の発刊へのお祝いの言葉とさせていただきます。